

1920

第一 件



大臣



次官



主務局部長



主務課長



参事官

高級副官



主務副官

主務課員



人事課長



校舎

八月廿九日

受番

領番

吉野第七五三聯

廳名

和歌山縣

件名

名

吉野兵員募集令格者採用件

提出

二十七年八月廿九日

吉野兵員募集令格者採用件、通達件

吉野兵員募集令格者採用件、再

室

庫

目

應法稟請有之。又右の形要氏の中田号に採用
セサル内規の多之。尤モ其裏に法稟請の通牒議
可敷成云々。及通牒の軌に検査を行ふ。直に
採用スルノ趣意。この多之。其後改正
お成り。中田六呂番。現にお及本年當番。若手
芳田歸一。依り更に出願。上検査り受ケ。已
ハ一中。下中。遂にお及。然故。及通牒。又
也。

高麗郵政司官印

別成甲第之通和穀山縣志事之稟請以之

函于羅興氏云、今年ノ巨震力、漏所著リ成
 此ノ多數、且、力、未、反、趣、意、云、余、可、以、活
 予、及、通、牒、也、

八月廿九日

八月廿九日

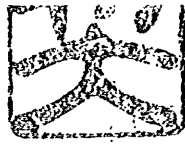
高級的及中等師範學校、函館案

本年倭軍為害甚烈、四月廿八日、
 於手後位也、以一中屯田兵、
 召第一、五、七、八、九、十、
 本年、特、水、害、罹、災、民、有、
 召、第一、五、七、八、九、十、

種々都合より全帳者中一採用せしむる者多
 数なるを以て本年一月より加へしなる者
 曰縣知事一より重注するの故其希望するは
 是れよりなる也此題意より觀し調査段より
 尚ほ大段に月を以てはしる事あるを以て
 通曉なり也

軍機 卷之四 二二八

八月廿九日



0255

軍省
第五十九號

軍三第三〇

八月廿四

屯田兵召募合格者採用ノ義ニ付稟請

縣下大洪水罹災民ヲ屯田兵採用方ニ關シテハ
従來屢々稟請仕候次第ニ有之本年四月一日
京第七号ヲ以テ檢査合格者ニシテ採用セラレ
サル者五十七戸翌年廻シ御採用ノ義及稟
請置候處四月十九日付ヲ以テ兎玉陸軍次官
ヨリ稟請ノ通御詮議可相成旨通牒ニ接シ
難民ノ幸福無此上義ニ有之候然ルニ右五
十七戸ハ合格者中新平民十八戸ヲ除キタル
數ニシテ當時召募官ヨリ新平民ハ採用不
相成御内規ニ付可相省旨指示有之已ヲ得ス
一旦相省キ置候得共退テ考フルニ既ニ等シク

檢査ヲ受ケシメ合格ノ上之ヲ省クニ其幾分ヲ
 撰拔スル義ニ候ハ諭示ノ方便モ相立候得共
 罹災地ノ合格者ハ悉皆採用相成候場合ニ
 於テ獨リ新平民ニ限り其恩典ニ與ル能ハサルハ
 真ニ慙然ノ至リニシテ之ヲ説諭スルノ途モ無
 之殊ニ其人物等ヲ調査スルニ概ネ皆相當ノ教
 育モ相受ケ居リ通常平民ト毫モ差違無
 之就中陸軍兵役ニ服シ一等卒ニ相成現ニ豫
 備ノ兵籍ニ在ルモ有之且前年ニ於テハ同
 種族ノモヨリ採用ノ實例モ甚カラス就テハ今
 更ニ甚々御手數ノ義トハ相考候得共前叙ノ
 事情御洞察ノ上出格ノ御詮議ヲ以テ右十
 八戸御差加ヘ被下度此段再應稟請候也

明治二十七年八月廿五日

和歌山縣知事沖守



陸軍大臣伯爵大山巖殿

和歌山縣